

## こころの道

Nhan hieu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく  
ニャンハウ

かしこく  
トンミン

たくましく  
ホーエマイン



校長 佐藤之保

### 来年度に向けて

校長 佐藤 之保

「教科担任制」という言葉を御存知でしょうか。教育現場ではなじみの深い言葉です。

国内の小学校では、一人の学級担任が全教科（一部教科を除く）を教える「学級担任制」が一般的です。これに対して中学校では、教科によって教える教員が違います。これを、「教科担任制」といいます。

文部科学省では、昨年度から、小学校高学年（5・6年生）での「教科担任制」の必要性が指摘され、令和5年3月には、「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」が発出されました。その中で、教科担任制の効果としては「授業の質の向上」「小・中間学校間の円滑な接続」「多面的な児童理解」「教師の負担軽減」が挙げられています。

教員が担当する教科が少なくなることで、授業の準備の時間が確保され、同じ授業を複数回実施することで、授業改善も進みます。

子供たちが小学校から中学校へ進学した際には、学校の学習・生活に適応しやすく、教員間の授業に関する情報交換の活性化も期待できます。中学部の教科の専門性の高い教員から、小学部の教員が学び、多くの教員が授業の専門性を向上させることができます。

また、学級に対して複数の教員が教科指導をすることによって、子供たちに対していろいろな角度からの支援ができるようになります。一人の視野には限界があり、複数の視野になれば、より広い視野からいろいろな支援のアイデアが生まれる可能性があります。教科担任制は、学年という「チーム」で学年の子供たちを見ていく、そんなシステムでもあります。

そして、一人の教員の担当する教科を減少させることで、授業準備の効率化が実現し、教員の負担感を軽減することができます。子供たちにきめ細かい指導をするには、教員の精神的ゆとりがとても重要です。

子供を一人の教員がより深く理解する等、学級担任制の良さもありますが、国内の学校以上に教員の出入りが多く、各世代の教員をまんべんなく確保することが難しい現状を踏まえ、来年度から本校の小学部4・5・6年生に、「教科担任制」を導入することとしました。

については、今年度3学期から小学部4・5・6年生において、来年度の本格実施に向けて、教科担任制を試行していきます。無理がないよう、実施の形態も各学年の実態に応じて進めていこうと思っています。

ハノイ日本人学校の子供たちの学力の向上を確保し、子供も教員もさらに生き生きとした学校づくりを実現していきたいと思っています。